

**令和7年度 全国健康保険協会北海道支部評議会（第1回）
開催結果概要**

令和7年7月23日（水）全国健康保険協会北海道支部において、評議会の構成人数9名に対し8名の出席をいただき、令和7年度全国健康保険協会北海道支部評議会第1回を開催いたしました。その概要につきましては、以下のとおりです。

1. 日時 令和7年7月23日（水） 14:00 ～ 16:00
2. 場所 全国健康保険協会北海道支部
 （THE PEAK SAPPORO 4階 会議室A）
3. 出席評議員 片桐評議員、定好評議員、武山評議員、鄭評議員、
 寺田評議員、永田評議員、野村評議員、牧野評議員（五十音順）
4. 議事
 - （1）2024年度決算（見込み）について
 - （2）2024年度北海道支部事業結果報告について
 - （3）その他報告事項
5. 議事に対する評議員からの主なご意見・ご発言
 以下のとおり。

議題1：2024年度決算（見込み）について

【被保険者代表】

・協会設立の経緯は理解しているが、各支部に競争原理を働かせる都道府県単位保険料率の考え方と同様に地域差分を精算する仕組みには納得しがたい。医療費抑制に係る支部努力は認めるところだが、その効果は限定的であり、また、拡大する支部間格差を鑑みて、協会は全国一律の組織という立場に立ち返るとともに、現行の保険料率算定ルールを見直す時期にあると考える。

【学識経験者】

・地域差分がマイナスとなっている要因の一つに、新型コロナにかかる医療費のマイナス寄与度が全国と比べ若干低いことが考えられるとのことだが、背景等をどのように見ているのか。

【事務局】

・北海道支部は全国と比較しコロナ蔓延に伴う医療費の増加幅が小さかったことから、その反動による減少幅も小さくなったのではないかと考えている。

議題 2：2024 年度北海道支部事業結果報告について

【被保険者代表】

・債権管理・回収と返納金債権発生防止の強化について、債権の内訳と、発生額が右肩上がりで推移している要因は何か。

【事務局】

・内訳について、無資格受診が殆どであり、他は年金併給調整や業務上傷病に係る返納金等が存在する。発生額について、連続で増加していることは事実だが、高額債権の影響を受けやすいことから増加基調にあるとまでは考えていない。2024 年度では業務上傷病に係る返納金において高額なものが多かった。

【被保険者代表】

・マイナンバーカードと健康保険証の一体化に対する対応等について、資格確認書の発行・返却条件等が複雑であり現場では情報が錯綜している。実務面での実用的な周知広報が不足していると感じた。

【事務局】

・制度上、協会の自由裁量の少ない領域であるが、事業所や担当者に多大なご苦勞をかけていると認識している。支部としては、部門間連携のうえ更に良質な研修や周知広報に努めたい。

【学識経験者】

・北海道支部加入者の喫煙率が 2023 年度で突如上昇しているが、統計値として信用に足るのか。また、上昇した要因は何か。

【事務局】

・示している喫煙率は健診受診者における値であり、必ずしも北海道支部全加入者の喫煙率と一致するものではない。近年、自然減のトレンドにある喫煙率が上昇した要因について、喫煙率の高い業態の健診結果取得が進んだことが一因と考える。2022年度頃から貨物運送業界の協力の基、健診結果取得を強力に推進しているところ。当該業態は平均より喫煙率が高いため、自然減を受けてなお喫煙率が上昇する結果となった。

【学識経験者】

・喫煙率は事業実施の骨子となる数値のため、客観性・正確性も重視していただきたい。

【事業主代表】

・支部事業の自己評価について、計画どおり、もしくは計画を上回る実施状況と評されているが、他方で精算により料率が加算される。協会の事業成果として加入者が実感するのは保険料率だと考えているが、取組み結果が良好であったにも関わらず、加入者に追加で負担を求めるという矛盾についてどう理解すればよいか。

【事務局】

・支部の取組みが足もとの財政面に直接的に効果が挙がることが理想だが、健康づくりに係る事業は短期的な成果を望みにくい。一方でレセプト点検における約8億円の査定は単年度の医療給付費削減に直結するものであり、料率換算すると約0.02%ポイント分の引き下げ効果があったと言い換えられる。今後はそれぞれの事業が財政面や保険料率にどのように影響するのかという視点もあわせて報告する方向で考えたい。

以上